

I 主イエスは、どのようなお方か？先行する主の恵み！

1. 「さて、私達には、もろもろの天を通られた」方がおられる。：14

「もろもろの天を通られた」＝キリストは、地上の救いの御業を成し遂げられ、高く上げられ、栄光と誉れの冠を受けて、父なる神の右の座に着かれ（ヘブル1：3、2：9）、勝利を持って神の臨在そのもの（天）の中に入られたという意味。9：24。

2. 「神の子イエス（救い主）」：14。

キリストの偉大さは、神の御子という本質に基づいている。

キリストは、人となられたが、神としてのご性質をなくされたのではない。私達を救う事の出来る偉大な神ご自身、神の愛される御子なる神である。

3. 「偉大な大祭司」：14。

旧約時代の地上の大祭司は、年に一度だけ、聖所を通り抜けて至聖所（神の臨在の聖なる場）にまで進み、民の罪の贖いという職務を成し遂げた。

しかし、キリストは、地上の聖所ではなく、本物の天の神の臨在＝至聖所そのものに入られたので、他の誰とも比べられない偉大な大祭司（神と人の仲介者、民の罪の贖いをする方）。

4. 「私たちの大祭司（キリスト）は、私たちの弱さに同情できない方ではありません」：15。

私達は、皆、それぞれ弱さ（無力さ、体の弱さ、精神的な弱さ、誘惑への弱さ等）がある。そのような私達を主は同情（原語：思いやる、一緒に苦しむ）して下さい。

私たちの為に、神であられるのに人となり、先にひどい苦しみを味わって下さり、今も、共におられて私達の苦しみを感じ、力を与えて支えて下さる素晴らしいお方！

5. 「罪は犯しませんでした」：15。

この御言葉を「イエス様だから、当たり前だ」と簡単に受け取ってはならない。

私達の想像することでもできない罪の誘惑、攻撃、それに悪魔の誘惑、集中攻撃を絶えず受けられた。私達の戦いとは比較できないほど厳しいもの。

私達の場合は、罪が総攻撃をかける前に敗れてしまうので、罪の力がどんなに恐ろしく、激しいものか、あまり知らない。

「あなたがたは、罪と戦って、まだ血を流すまで抵抗したことはありません」（ヘブル12：4）。

なんと、私達と同じ肉体を持ちつつ、私達の救いの為に耐え抜かれた。

罪を犯すとは、戦わない道を選ぶ事である。

罪を犯さないとは、戦いの道を選ぶ事である。

もし、キリストが、一度でも、罪との戦いを止め、罪を犯されたなら、全人類の身代わりに罪を負う資格がなくなってしまう。そうならないように、キリストは罪と命がけで戦い、罪を犯さず、十字架で私達の罪をすべて負われた！感謝！

6. 「すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです」：15。

私達の事には無関心で、この世界の事とは絶縁しておられる神、キリストではない。あらゆる領域で、「肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢」（Iヨハネ2：16）等の誘惑、試みを受けられた。

それ故に、私達、弱さのある者の気持ちを理解し、とりなし、助けて下さる。

※私達も同じである。弱さ、苦しみを味わうと、同じ苦しみを通っている人への思いやり、理解が深まる。

II 私達の応等→こんなに偉大で同情深い主イエス様がおられるのだから！

1. 「信仰の告白を堅く保とうではありませんか」：14。

①この「告白」の原語は、「同意する」の意がある。つまり、作り話、神話のイエス様を告白するのではな

く、イエス様の素晴らしさ、十字架と復活の事実のみことばに、「同意して信仰告白をする」。

②その御聖霊が与えて下さる「信仰告白」を、苦しみ、迫害、忍耐が必要な状況の中でも、堅く保つ、しっかりつかみ保持する。主も、私達をしっかりと、つかんで下さる（ヘブル13：5）ので、私達も、しっかりつかみ続ける。

③この信仰告白は、大切な霊的遺産であり、私達に生きがいを与える！

この為に、歴史を見ると、迫害の中で主への信仰告白を捨てず、無数の信仰者達が、殉教するほど価値のあるもの。地上で死を迎えても、天国で主が迎えて下さる。

④この尊い主への信仰告白を、今も、これからも、しっかり保ち、次の世代へと確実に手渡して行きたい。その為に祈り続けよう！

2. 「ですから私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、折にかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか」：16。

①「あわれみを受け、また恵みをいただいて」＝私達は弱く、罪深く、失敗し易い。その時、悪魔は、「もう神様のもとへは戻れない。赦されない。祈る資格などない。教会に行く資格はない」等、攻撃して来る。自分でも、そう思ってしまう。

しかし、そんな時こそ、神に正直に自分の罪を告白する時、イエス様の十字架の償い、贖いの完成の故に、神の憐れみと恵みで私達を完全に赦して下さい！

そして、続けて、素晴らしい神との交わりを持つ事ができる。ハレルヤ！

②「折にかなった助けを受けるために」＝何と素晴らしい御言葉だろう！

すぐとは限らず「折にかなった」原語：ちょうど良い時の、時宜にかなった、タイムリーな。

神の祈りの答えの方法、タイミング。

i すぐに与えられる時もある。

ii 「ノー」という答えもある。それは、神が私達を無視、拒否されているのではなく、別のもの、別の良い道を用意されているという事。

「わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、あなたがたの道は、わたしの道と異なるからだ」

（イザヤ55：8）。

iii 「待ちなさい」という答え。私達が願う「時」と神の「時」は違う。つまり、良いものでも、あえて、すぐには与えられず、「ちょうど良い時に」神は最善のものを与えられる！

「わたしの道は、あなたがたの道よりも高く、わたしの思いは、あなたがたの思いよりも高い（最善）」

（イザヤ55：9）。

「あなたがたが神のみこころを行って、約束のものを手に入れるために必要なのは、忍耐です」

（ヘブル10：36）。

私達は、そのことを知っている。過去を振り返ると、すぐに神が答えられなかった意味が分かって来る。

※すべてがすぐに分かるわけではないが。つまり、私達の深い成長の為に、あの苦しむべき事を苦しむという時間が必要なのである。早すぎる解決は、私達が、学ぶべきものを学ぶ時間を与えない。神の助けは、何という絶妙のタイミングで与えられる事か！ハレルヤ。

iv 目に見える解決が今、与えられていないとしても、その辛い中、「主は、いつも、あなたと共にいて下さる！」という助けは、いつも与えられていることを忘れずにいよう！

③「大胆に（原語：信頼による率直さ、信頼の結果、全き確信）」＝キリストの十字架の赦しを「確信して」、いつも神に「大胆に近づき祈り」、もし、罪を犯したら、すぐに告白して祈ろう。神は、私達を赦し、罪から離れる力と神に近づく恵みを、与えてくださる。

まだ主を信じていない方も、この素晴らしい主を信じよう！